

授 業 科 目		基礎分野 論理的思考と文章表現	担 当 者 資格・役職等	大学講師 大学准教授 専門学校非常勤講師
開 講 時 期		1 年 前・後期	時 間 数	35 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的：1. 論理的に考え、推論し、書く能力は学問の基礎であるとともにコミュニケーションの基盤となるため、言葉を正確に使用して自分の思考などを相手に明快に伝達しようとする態度を養う。 2. 情報の定義と特徴、情報の検索と活用方法、情報の伝達とコミュニケーションを理解する。 概要：1. 文章を正確に読解し、論理的に作成することを通して論理的な表現、心情を豊かに表現する力や、自分の思考を相手に明快に伝達する表現方法を学ぶ。 2. 准看護師に必要な情報倫理を理解し、情報を取り扱う際の知識・態度を習得する 3. 文書作成ソフトを用いた文書作成の技術を習得する。		
回 数	時 間	授業内容	担当者	
1	1・2	ガイダンス：声のことばと文字のことばの違いとは	非常勤 講師 (国語)	
2	3・4	看護とことばとのつながりを考える		
3	5・6	ことばの知識を増やす		
4	7・8	書くために読む(1) 小学校の国語教科書から		
5	9・10	書くために読む(2) 中学校の国語教科書から		
6	11・12	課題論述型小論文を書く―素材を集める、設計図を作る、ルールに則って書く ―	非常勤 講師 (国語)	
7	13・14	読みやすい文章を書く(1)―書き言葉の特徴を知る、表記を工夫する―		
8	15・16	文章読解型小論文を書く―文章を縮約する―		
9	17・18	読みやすい文章を書く(2)―文章構成を考える、語彙・文法に注意する―		
10	19・20	自説に他者の意見を織り込む ―引用の仕方・参考文献の書き方を知る―		
11	21・22	読みやすい文章を書く(3)―情報を収集し、整理する―		
12	23・24	レポートの作成と推敲		
13	25・26	まとめ		
1	27・28	情報とは・情報の検索と活用方法 情報の伝達とコミュニケーション	非常勤 講師 (情報科学)	
2	29・30	情報倫理とは 医療・看護領域における情報倫理(事例)		
3	31・32	文書作成の技術 1 (Word の使用方法と文書作成)		
4	33・34	文書作成の技術 2 (Word を使用しレポートを作成)		
5	35	終講試験(45 分)		
教科書		国語 『「看」字ドリル』SENKOSHA 看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン		
参考文献		講師配布資料 ,『文章力の基本』光文社 『文章力が身につく本』高橋書店 『朝 5 分!読むだけで文章力がグッと上がる本』ナガ 枘文庫 『看護学生のためのレポート書き方教室』照林社		
成績評価の方法		課題レポート(原稿用紙) 漢字テスト・語彙表現テスト 出席状況 授業態度・課題(作成文書)または筆記試験		

授 業 科 目		基礎分野 地域の人々の暮らしと社会Ⅰ	担 当 者 資格・役職等	非常勤講師
開 講 時 期		Ⅰ 年 前 期	時 間 数	20 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的:社会で起きているさまざまな問題を学び、看護の対象である人に関わるために必要な、人権及び倫理を尊重する態度を学ぶ。地域で暮らす人々について知り、社会の仕組みを知るための基礎的能力を養う。 概要:障害者や慢性疾患と共に生きている人々のライフストーリーを知り、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンについて考える。どんな社会にすれば、すべての人々が自分らしく生きられるか考える。		
回数	時間	授 業 内 容		担当者
1	1・2	オリエンテーション、成績評価方法、 (講師)慢性疾患患者のライフヒストリー		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	人間はバラエティ豊かであることを知る 障害の社会モデル		
3	5・6	慢性疾患児の幼少期・学童期の諸問題		
4	7・8	慢性疾患患者の青年期の諸問題 移行期医療について		
5	9・10	小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を知る		
6	11・12	病気と共に生きる人が働くということ		
7	13・14	病気と共に生きながら、結婚、子育て、老後		
8	15・16	患者教育、患者協働の医療		
9	17・18	自己肯定・他人肯定の高め方、共生社会、助け合い		
10	19・20	「自分らしく生きる」とは		
教科書		なし		
参考文献		海老原宏美著「わたしが障害者じゃなくなる日」		
成績評価の方法		出席状況・ワーク・質問挙手		

授 業 科 目		基礎分野 地域の人々の暮らしと社会Ⅱ	担 当 者 資格・役職等	英会話学校講師
開 講 時 期		Ⅰ 年 前 期	時 間 数	15 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的：外国語に親しみながら,保健医療活動の場で常用される外国語の表現力・読解力の基礎的な能力を養い異文化について興味を持ち対象を理解する知識を深める。 概要： 1) 日常英会話の基本 2) 看護に関する専門用語 3) 違う文化を尊重した関りを考える		
回数	時間	授 業 内 容		担当者
1	1・2	あいさつ 自己紹介		非常勤講師
2	3・4	看護技術（患者さんの基本情報、日常介助）		
3	5・6	症状		
4	7・8	受付（初診、病歴、入院）		
5	9・10	指示表現・はげまし・薬の飲み方		
6	11・12	文化や宗教の違い		
7	13・14	会話の試験		
	15	筆記試験		
教科書		看護英会話入門 医学書院		
参考文献		随時資料プリント配布		
成績評価の方法		会話と筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	医師
		人体のしくみと働きⅠ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する。 骨格系、筋系、呼吸器系 概要: 1.解剖学を学ぶ上で必要となる人体各部の名称や用語を把握する。 2.身体を支持し、運動できる仕組みの骨と筋肉の種類について学ぶ。 3.呼吸器の構造と働きを学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第1章 総論		非常勤 講師 パワーポイント
2	3・4	第2章 人体の構成 Ⅰ細胞:人体の細胞の形態、細胞の内臓構造、細胞分裂		
3	5・6	人体の構成 Ⅱ組織:上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織		
4	7・8	人体の構成 Ⅲ器官:中空器官、実質器官 Ⅳ漿膜と漿膜腔		
5	9・10	第3章 人体の器官系 Ⅰ筋骨格系 Ⅱ循環器系 Ⅲ呼吸器系 Ⅳ消化器系 Ⅴ泌尿器系 Ⅵ生殖器系 Ⅶ内分泌系 Ⅷ神経系 Ⅸ感覚器系		
6	11・12	第4章 運動器系 Ⅰ骨・筋学総論 A.骨学総論 B.筋学総論		
7	13・14	Ⅱ体幹の骨と筋 A B C D E F G		
8	15・16	Ⅲ上肢の骨と筋 A B		
9	17・18	Ⅳ下肢の骨と筋 A B		
10	19・20	Ⅴ頭部の骨と筋 A BⅥ骨と軟骨の生理 A B C		
11	21・22	Ⅶ興奮性組織の一般生理 A B C		
12	23・24	Ⅷ筋の生理 A B 付章 上肢と下肢の構成		
13	25・26	第7章 呼吸器系 Ⅰ呼吸器系の器官 A.鼻腔 ~ G.縦隔		
14	27・28	Ⅱ呼吸の生理 A.外呼吸と内呼吸 B.呼吸運動		
15	29・30	C.呼吸数、換気量、肺活量 D.血液ガス E.呼吸の調整		
16	31・32	F.異常な呼吸 G.酸素負債 H.発声		
17	33・34	まとめ 筆記試験		
18	35			
教科書		看護学入門Ⅰ 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社) 看護学入門8 成人看護Ⅰ 呼吸器(メヂカルフレンド社)		
参考文献		おもしろくなる解剖生理(照林社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	医師 医師
		人体のしくみと働きⅡ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する。 血液系・生体防御系・循環系・神経系・感覚系 概要:1)血液の組成と機能、循環器の構造とその働きについて学ぶ。 2)外敵を排除する免疫について学ぶ。 3)中枢神経を通して入力された情報がどのように末梢神経へ広がるかを学ぶ。 4)感覚器の構造とその働きについて学ぶ。		
回数	時間	時間	担当者	
1	1・2	第 5 章 Ⅰ 体液 A B C D Ⅱ 血液 A.血液の細胞成分 B.血漿 C.血液凝固 D.血液型 Ⅲリンパ 第 6 章 Ⅰ 心臓 A B C Ⅱ 血管の種類と構造 Ⅲ血液の循環 Ⅲ血液の循環 A B C D E F G Ⅳ胎児の循環 Ⅴ心臓の生理 A B C D E F Ⅵ循環の生理 A B C Ⅶ血圧 A B C D Ⅷリンパ系とリンパ組織 A B C D まとめ 筆記試験	非常勤講師 パワーポイント	
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
7	13・14			
8	15・16			
9	17・18 19・20			
1	21・22	第 13 章 Ⅰ 神経細胞とその働き A B Ⅱ 中枢神経系の構造と機能 A B C D E F Ⅲ中枢神経系の活動 A B C Ⅳ末梢神経系の構造と機能 A B C 第 14 章 Ⅰ 感覚器の生理 Ⅲ味覚器の構造と生理 Ⅳ嗅覚器の構造と生理 Ⅵ平衡聴覚器の構造と生理 筆記試験	非常勤講師 パワーポイント	
2	23・24			
3	25・26			
4	27・28			
5	29・30			
6	31・32			
7	33・34 35			
教科書		看護学入門Ⅰ 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社)		
参考文献		おもしろくなる解剖生理(照林社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	医師 医師
		人体のしくみと働きⅢ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:人体の構造と機能の概要について系統的に学び、正常な身体のメカニズムを生活行動と結び付けて理解する 消化・吸収系、内分泌系、腎尿路系、生殖系 概要:1)消化器の構造とその働きについて学ぶ。 2)内分泌臓器の種類と働きについて学ぶ。 3)腎臓と排泄路の構造と尿生成と体液の調節について学ぶ。 4)生殖器の構造とその働きについて学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第 8 章 Ⅰ 消化器系の器官 A.口腔~D.小腸 E.大腸~H.腹膜		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	Ⅱ 消化器系の血液循環と神経		
3	5・6	Ⅲ 消化と吸収の生理		
4	7・8	Ⅳ エネルギー代謝		
5	9・10	第 9 章 Ⅰ 体温とは Ⅱ 体熱の産生と放散 Ⅲ 体温調節		
6	11・12	第 12 章 Ⅰ 内分泌腺 A.甲状腺 B.上皮小体(副甲状腺)		
7	13・14	C.下垂体 D.副腎(腎上体) E.松果体 F.膵臓 G.性腺 Ⅱ ホルモンの作用様式		
	15	筆記試験		
1	16・17	第 10 章 Ⅰ 泌尿器系の器官 A.腎臓 B.尿路		非常勤講師
2	18・19	Ⅱ 尿の生成と排泄の生理 A.尿 B.尿の生成		
3	20・21	C.腎クリアランス D.排尿		
4	22・23			
5	24・25	第 11 章 Ⅰ 生殖器系の器官 A.男性生殖器 B.女性生殖器		
6	26・27	Ⅱ 生殖の生理 A 卵巣と子宮の機能 B 乳汁分泌		
7	28・29	C 更年期と閉経		
8	30・31	復習		
9	32・33			
	34・35	まとめ・筆記試験		
教科書		看護学入門Ⅰ 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社)		
参考文献		おもしろくなる解剖生理(照林社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	管理栄養士 管理栄養士 看護師
		栄養		
開講時期		Ⅰ 年 前期/後期	時間数	35 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的:看護職として必要な栄養について学び食事療法の基礎知識を理解する。 概要:Ⅰ)栄養素の種類と働き、消化・吸収・代謝、エネルギーの摂取と消費について基礎知識を学ぶ。 2)疾病・障害時の食事療法について基礎知識を学ぶ。 3)食事療法の実際と看護師の役割について学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
Ⅰ 2 3 4 5 6	Ⅰ・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12	序章 食生活と栄養の意義 第Ⅰ章 Ⅰ 食生活について 第Ⅱ章 食事摂取基準 第Ⅲ章 栄養素とその代謝 Ⅰ たんぱく質 Ⅱ 脂質 Ⅲ 炭水化物(糖質と食物繊維) Ⅳ ビタミン Ⅴ 水とミネラル		非常勤講師
	13	筆記試験		
Ⅰ 2 3 4 5 6	14・15 16・17 18・19 20・21 22・23 24・25	第Ⅳ章 病院食 第Ⅴ章 食事療法 Ⅰ 腎臓疾患 Ⅱ 循環器疾患の食事療法 Ⅲ 代謝疾患 Ⅳ 消化器疾患の食事療法 Ⅴ 悪性腫瘍 Ⅵ 貧血の食事療法 Ⅶ アレルギー Ⅷ 高齢者 Ⅸ 小児 Ⅹ 妊婦・授乳婦 Ⅺ そのほかの疾患 Ⅻ 手術と栄養 Ⅼ 特殊食品 第Ⅵ章 特殊栄養法		非常勤講師 パワーポイント
	26	筆記試験		
Ⅰ 2 3 4	27・28 29・30 31・32 33・34 35	食事療法を受ける患者の看護 まとめ 食事療法を受ける患者指導の実際 Ⅰ 食事療法を受ける患者指導の実際 2 食事療法を受ける患者指導の実際 3 発表		専任教員 パワーポイント
教科書		看護学入門 2 栄養(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	薬剤師 薬剤師 保健所講師
		薬理Ⅰ		
開講時期		1 年 前期/後期 / 2 年 後期	時間数	35 時間/70 時間
授業目的 及び概要		目的:薬物についての基礎知識を身につけ、薬物の特徴と人体への影響、薬物の取り扱いを学ぶと共に、薬物による生理的变化と観察の重要性を理解する。 概要:1)薬に関する基本的事項(薬の定義・法令・管理)、生体における薬の働き(作用・副作用部位)、生体内での薬の働き(吸収、分布、排泄)を理解する。 2)臨床で用いられている代表的な薬物による生理的变化と投与上の注意点を学び、観察の重要性を理解する。 3)麻薬の取り扱いと生体に及ぼす影響について学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1 2 3 4 5	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11	第Ⅰ編 薬理の基礎知識 第Ⅰ章 薬に関する基礎知識 第2章 医薬品の適正な使用に必要な基礎知識 第Ⅱ章 消毒薬 第Ⅲ章 抗悪性腫瘍薬 第Ⅳ章 漢方薬 まとめ 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	12・13 14・15 16・17 18・19 20・21 22・23 24・25 26・27 28・29 30・31 32・33	第3章 神経系・筋に作用する薬物 第4章 代謝系・内分泌系に作用する薬物 第5章 炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物 第6章 循環器系に作用する薬物 第7章 血液・造血器官に作用する薬物 第8章 呼吸器系に作用する薬物 第9章 消化器系に作用する薬物 第10章 泌尿・生殖器系に作用する薬物 第11章 抗感染症薬 復習 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
1	34・35	麻薬・覚醒剤について		保健所講師
教科書		看護学入門 2 薬理(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師 看護師 看護師
		薬理Ⅱ		
開講時期		1 年 前期/後期 / 2 年 後期	時間数	35 時間/70 時間
授業目的 及び概要		目的:薬物についての基礎知識を身につけ、薬物の特徴と人体への影響、薬物の取り扱いを学ぶと共に、薬物による生理的变化と観察の重要性を理解し看護に結びつけて考えることができる。 概要:臨床で用いられている代表的な薬剤と薬物療法・看護のポイントについて学び、与薬に必要な知識を身につける。		
回数	時間	授業内容		担当者
1 2	1・2 3・4	第 2 編 薬部療法と看護 第 1 章 安全な与薬に必要な知識		非常勤講師
1 2	5・6 7・8	第 2 章脳神経疾患 第 3 章代謝・内分泌疾患 第 9 章 腎・泌尿器疾患		
1 2	9・10 11・12	第 6 章 血液・造血器疾患 第 8 章 消化器疾患 第 11 章 悪性腫瘍第		非常勤講師
1 2 3	13・14 15・16 17・18	第 4 章 膠原病・感染症 第 5 章 循環器疾患 第 7 章 呼吸器疾患		非常勤講師
1 2 3 4 5 6 7 8	19・20 21・22 23・24 25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35	第 12 章 感覚器疾患 第 3 編 薬物をめぐる医療安全 パフォーマンス課題Ⅰ:グループワーク(事例を基に安全・安楽な方法を考える) グループワーク 発表 パフォーマンス課題Ⅱ:グループワーク(事例を基に安全・安楽な方法で実施) グループワーク 発表 まとめ 筆記試験		専任教員
教科書		看護学入門 2 薬理(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		授業出席状況、課題提出状況、パフォーマンス評価、課題到達度評価、筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者	医師 医師
		疾病の成り立ち I	資格・役職等	医師
開講時期		I 年 前期	時間数	34 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:「病気」とはどのような状態をいうかを理解し、看護職に必要な疾病の成り立ちの基礎を学ぶ。		
		概要:1) 疾病・障害の原因と病態を理解し、回復のための治療を理解する。		
		2) 生体組織に障害因子が加わったとき、組織や細胞を取り巻く環境に変化が生じたとき、生体がどのように対応し、回復し、あるいは死へと向かうのか、そのメカニズムを理解する。		
		3) 正常な人体のしくみ(身体の構造・解剖)と働き(機能・生理)が異常をきたした場合:疾患、異常のおこり方や原因:病態生理を学ぶ。		
		・血液・造血器 ・循環器、呼吸器、脳・神経 ・腎・泌尿器		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	病理学総論 第 1 章、2 章 (疾病の成り立ち、病気の種類とその要因)		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	第 3 章、4 章 (先天異常、退行性病変と進行性病変)		
3	5・6	第 5 章、6 章 (循環障害、炎症)		
4	7・8	第 7 章(腫瘍) 第 11 章 (臨床病理検査)		
5	9・10	病理学各論 第 4 章 血液・造血器疾患		
6	11・12 13	// 筆記試験		
1	14・15	病理学各論 第 1 章 呼吸器疾患(上気道の疾患~縦隔の疾患)		非常勤講師 パワーポイント
2	16・17	//		
3	18・19	//		
4	20・21	第 2 章 循環器疾患(虚血性心疾患~血管の病変)		
5	22・23	//		
6	24・25	//		
7	26・27	第 7 章 脳・神経疾患(頭部外傷~脳腫瘍)		
8	28・29 30	// 筆記試験		
1	31・32	腎・泌尿器疾患患者の看護		非常勤講師 パワーポイント
2	33・34	第 1 章 腎・泌尿器疾患の基本的知識 I 腎・泌尿器の構造と機能 II 主な症状と病態生理 III 主な検査 IV 主な治療法		
教科書		看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 腎・泌尿器 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護学入門 8 成人看護Ⅰ (メヂカルフレンド社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	医師 医師 看護師
		疾病の成り立ちⅡ		
開講時期		1 年 前期 / 2 年 後期	時間数	36 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:「病気」とはどのような状態をいうかを理解し、看護職に必要な疾病の成り立ちの基礎を学ぶ。 概要:1)正常な人体のしくみ(身体の構造・解剖)と働き(機能・生理)が異常をきたした場合:疾患、異常のおこり方や原因:病態生理を学ぶ。 ・消化器、内分泌・代謝、運動器、女性生殖器・乳腺 ・皮膚、膠原病、アレルギー ・感覚器		
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	第 3 章 消化器疾患 Ⅰ 口腔疾患 Ⅱ 唾液腺疾患 Ⅲ 食道疾患 Ⅳ 胃疾患 Ⅴ 腸疾患 Ⅵ 肝臓疾患 Ⅶ 胆嚢・胆道疾患 Ⅷ 脾臓疾患 第 5 章 内分泌・代謝疾患 Ⅰ 下垂体疾患 Ⅱ 甲状腺疾患 Ⅲ 副甲状腺疾患 Ⅳ 副腎疾患 Ⅴ 膵島腫瘍 Ⅵ 糖尿病 Ⅶ その他 第 8 章 女性生殖器疾患・乳腺疾患 Ⅰ 性器疾患 Ⅱ 子宮疾患 Ⅲ 卵巣疾患 Ⅳ 乳腺疾患 筆記試験	非常勤講師 パワーポイント	
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
7	13・14			
8	15・16 17			
1	18・19	第 10 章 感覚器疾患 Ⅰ 皮膚疾患 疾病の成り立ち 皮膚疾患患者の看護 第 1 章 皮膚疾患の基本的知識 第 2 章 主な疾患とその治療 第 3 章 皮膚疾患看護の基本 第 4 章 皮膚疾患患者の看護 まとめ 筆記試験	非常勤講師 パワーポイント	
2	20・21			
3	22・23			
4	24・25			
5	26・27			
6	28・29 30			
1	31・32	眼疾患、耳鼻科疾患、血液疾患 知識確認 疾病の成り立ちまとめ	専任教員	
2	33・34			
3	35・36			
教科書		看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ(メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護学入門 8 成人看護Ⅰ(メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ(メヂカルフレンド社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	医師 看護師
		疾病の成り立ちⅢ		
開講時期		Ⅰ年 前期/後期	時間数	35 時間/105 時間
授業目的 及び概要		目的:自然界に存在する多くの微生物の中で病気を起こす微生物について理解し、看護に必要な感染予防や治療について学ぶ。 概要:1)異物である微生物に対し生体がどのような防御機構を持つかを学び、予防接種の原理、抗体による治療や診断法を理解する。 2)感染症の原因となる微生物について理解を深め、医療従事者が自己及び他を感染から守るための対策を学ぶ。 3)臨床で行われる検査の基礎知識を理解し、検査時の看護を学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第8章 免疫		非常勤講師 (感染と予防)
2	3・4	第9章 感染と予防		
3	5・6	Ⅰ微生物の基礎		
4	7・8	Ⅱ微生物と感染		
5	9・10	Ⅲ感染症法・検査法		
6	11・12	Ⅳ感染予防 Ⅴ感染症の検査・診断		
7	13・14	Ⅵ感染症の治療 Ⅶ感染症の診断に利用される免疫学的検査		
8	15・16	第10章 感染症の原因となる病原微生物		
9	17・18	Ⅰ細菌		
10	19・20	Ⅱウイルス		
11	21・22	Ⅲ真菌 Ⅳ原虫 Ⅴプリオン		
1	23・24	診察時・検査時の看護師の役割って何？		専任教員 (ハワーポイント)
2	25・26	・診察とは ・主な検体検査(尿検査、便検査、喀痰検査、咽頭分泌物検査、血液検査でわかること) ・画像診断のための各種検査法(単純X線検査、造影検査、X線CT検査、MRI、超音波検査、上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査)		
3	27・28			
4	29・30	正確・安全・安楽に採血を行う方法を知ろう(目的、種類、部位、合併症、検査値変動の要因、採血物品に触れながら実際の流れを知る)		
5	31・32			
6	33・34	看護援助へいかす検査データの読み方		
	35	筆記試験		非常勤講師 専任教員
教科書		看護学入門 3 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社) 看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.1・2・3 (メディックメディア) 2026 年 准看護師試験問題集 (医学書院)		
成績評価の方法		授業出席状況、授業態度、課題提出、筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 看護概論Ⅰ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的：看護とは何かについて考え、自分の考えを表現できる。		
		概要：講義やグループワークを通し看護とは何か、看護の対象である人間とはどんな存在であるか、看護は何を目的に、どのような方法で行うのかについて考える。実際の看護活動について学び、自らの看護師像を考えるきっかけとする。 災害時の看護、国際看護、保健医療福祉システムについて学び、多様な場において看護がどのように機能すべきかを学習する。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	本当の看護とそうでない看護（ナイチンゲール覚書）		専任教員
2	3・4	看護の歴史		
3	5・6	看護の対象としての人間 Ⅰ		
4	7・8	看護の対象としての人間 Ⅱ		
5	9・10	患者を理解するために		
6	11・12	//		
7	13・14	看護理論家 GW		
8	15・16	//		
9	17・18	ワールドカフェ（発表）		
10	19・20	健康の価値・健康観・健康の概念		
11	21・22	健康をまもるしくみと看護		
12	23・24	生命倫理と看護の倫理		
13	25・26	//		
14	27・28	看護活動―看護の実施Ⅰ		
15	29・30	看護活動―看護の実施Ⅱ		
16	31・32	看護管理・医療安全		
17	33・34	職業としての看護		
18	35	筆記試験		
教科書		看護学入門5 基礎看護Ⅰ 看護概論（メヂカルフレンド社）		
参考文献		ナイチンゲール「看護覚え書」 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」		
成績評価の方法		課題レポート 筆記試験 授業出席状況 授業態度		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅰ		
開講時期		Ⅰ年 前・後期	時間数	Ⅰ7 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目標:看護技術とは何かを理解し, 専門職としての看護技術の基礎を学ぶ。 概要:看護技術を学ぶ前に, 看護技術とは何か考える。 観察, 記録および報告の意義, 種類, 方法を学び, 看護過程についての意義, 構成要素を理解し, 准看護師としてのかかわりを学ぶ。事例について考え理解を深める。 患者のニーズと日常生活援助の基本について学び, 患者の安全・安楽を守る看護の基礎知識について, 今後学ぶ看護へ繋げる。		
回数	時間	授業内容	担当者	
Ⅰ	Ⅰ・2	看護技術とは何か	専任教員 (パワー ポイント)	
2	3・4	日常生活に対する理解と援助		
3	5・6	観察の意義, 目的, 種類, 要件, 方法, 視点	専任教員	
4	7・8	看護過程とは		
5	9・Ⅰ0	看護記録の意義, 目的, 種類, 方法, 管理		
6	ⅠⅠ・Ⅰ2	報告の意義, 目的, 種類, 方法		
7	Ⅰ3・Ⅰ4	安全を守る技術, 医療事故		
8	Ⅰ5・Ⅰ6	安全と安楽について		
9	Ⅰ7	終講試験		
教科書		看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		授業出席状況 授業態度 筆記試験 講義振り返り表		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅱ－Ⅰ		
開講時期		Ⅰ年 前・後期	時間数	Ⅰ0 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的:自分を大切にし,他社も大切にするコミュニケーションの基礎的能力について学ぶ。 概要: よりよい人間関係を築くことは, 自分を知り, 相手を知ることから始まる。まず, 自身がどのようなコミュニケーションを行い, 人間関係を構築しているのか演習を交えながらとらえるようにする。その上で, 他者にも興味を持ち, 自身が相手にどのような影響を与えているのか考えられるようにする。日常生活におけるコミュニケーション方法を身につけ, 看護を学ぶ基礎を作り, 看護につなげられるように学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
Ⅰ	Ⅰ・2	自分のことを知ろう 相手のことを知ろう		専任教員
2	3・4	コミュニケーションとは コミュニケーションを阻害するもの		
3	5・6	グループワークの意味 人の意見や思いを聞く体制をつくること		
4	7・8	自分を見つめる自分		
5	9	相手を尊重することと自分を表現すること 双方向のコミュニケーション		
	Ⅰ0	終講試験		
教科書		看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.Ⅰ 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)		
成績評価の方法		授業参加度(出欠状況・提出物・授業態度) 筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者	保健師	
		基礎看護 基礎看護技術Ⅱ-2		医師 牧師	
開講時期		1年 前・後期	時間数	35 時間/245 時間	
授業目的 及び概要		目的： 1. 患者の心理を理解する手がかりとなる保健医療場面の心理的基礎, 対象別の心理患者の心理を理解するための基礎を学ぶ。 2. 健康・疾病・障害の心理学的基礎, 患者の心理および家族とのかかわり方の基礎を学ぶ。 概要： 1. 患者の心理を理解する基礎として, 個人の心理と行動, 社会・集団の心理を学ぶ。 2. 対象別にみた患者の心理について学ぶ。 3. 疾病や障害の経過（時期）による患者の心理について学ぶ。 4. 人のサイクルにおける疾病や障害の患者の心理について学ぶ。 5. 患者や障害者の家族の心理にも思いをはせる。			
		回数	時間	授業内容	担当者
		1	1・2	第2編 患者の心理	非常勤講師 パワーポイント
		2	3・4	序章 患者の心理の理解と看護	
		3	5・6	第1章 人の心理と心の健康	
		4	7・8	第6章 医療従事者の心理	
5	9・10	第2章 患者の心理の理解と支援			
6	11・12	I 患者の心理の理解			
7	13・14	II 患者の思いに近づくための方法			
8	15・16 17	まとめ 筆記試験			
1	18・19	第3章 経過別にみた患者の心理の特徴	非常勤講師 パワーポイント		
2	20・21	I 急性期にある患者の心理 II 回復期にある患者の心理			
3	22・23	III慢性期にある患者の心理 IV終末期にある患者の心理			
4	24・25	（キューブラーロスの5段階の心理過程）			
5	26・27 28	第4章 治療を受ける患者の心理 まとめ 筆記試験			
6	29・30	第5章 療養の場からみた患者の心理	非常勤講師		
7	31・32	I 入院患者の心理			
8	33・34 35	II 在宅療養中の患者の心理 筆記試験			
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）			
参考文献					
成績評価の方法		授業出席状況 授業態度 筆記試験			

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅲ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	25 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的： 1. 日常生活援助の意義について学び,理解を深める。 2. 快適な日常生活を過ごす事ができるよう,患者の入院環境を整える為の援助方法について学習する。 3. ベッドメイキングやリネン交換の技術を習得し,快適な環境を考える。 4. 滅菌・消毒・感染予防の基礎知識を学び,感染予防の技術を習得する。 概要:患者にとって,療養の場である病室は,患者がⅠ日生活する場でもある。患者が身体を休め,治療に専念できる環境を整えることは看護師にとってとても大切な看護援助である。この科目では,患者が快適な日常生活を過ごすことができるよう,環境を整えるための援助方法について学習をする。快適な環境とはどんなものなのかを学び,実際に患者がⅠ日の多くを過ごすベッドのベッドメイキングやリネン交換の技術を修得する。 また,感染予防の看護技術として医療器具等を実際に触れながら,滅菌,消毒についての基礎的知識を学ぶ。		
		回数	時間	授業内容
1	1・2	<日常生活に対する援助> <環境調整の技術> 環境とは、生活環境の基礎知識(屋内気候 換気 光 音 色) 病床環境の調整	専任教員 パワーポイント	
2	3・4	【演習】ベッドメイキングの実際(リネン類の取り扱い,たたみ方)		
3	5・6	クローズドベッドのつくり方		
4	7・8	クローズドベッドのつくり方		
5	9・10	オープンベッドの作り方 臥床患者のリネン交換		
6	11・12	<感染予防の技術> 高頻度接触部と環境整備		
7	13・14	【演習】スタンダードプリコーション 滅菌・消毒 衛生的手洗い		
8	15・16	滅菌手袋 個人防護(PPE) 無菌操作 医療廃棄物の処理		
9	17・18	ベッドメイキング練習		
10	19・20	//		
11	21・22	技術チェック		
12	23・24	//		
13	25	終講試験		
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.Ⅰ 基礎看護技術 (メディックメディア)		
成績評価の方法		授業出席状況 授業態度 筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅳ		
開講時期		1 年 前期	時間数	18 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的:姿勢の保持や活動と休息のバランスについて理解し、対象が安全安楽で自立した生活が送れるための援助方法を習得する。 概要:人間はほぼ一定のリズムで活動と休息をとり、健康を維持している。 良い姿勢の保持や活動・休息の意義・目的を理解し、充足できない場合の身体面・精神面・社会面への影響について考え看護の必要性を理解し、安全安楽自立に向けた援助を講義や学内演習を通して学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	【演習】体位って何？ ～自分が普段とっている姿勢から考えてみよう～ (主な体位、良い姿勢とは)		専任教員 ハワ・ポイント
2	3・4	【演習】対象者・看護者にとって安全安楽な援助の方法を知ろう		
3	5・6	～ボディメカニクスを使用した体位変換～ (ボディメカニクス、体位変換)		
4	7・8	【講義】活動と休息のバランスを考えよう (活動とは、休息とは、廃用症候群、安静とは、睡眠とは)		
5	9・10	【講義】褥瘡って何？ ～褥瘡発生メカニズムと予防法～ (褥瘡とは、予防・治療・ケア)		
6	11・12	【演習】今日からつかえる包帯法！ ～創部の処置をやってみよう～ (創傷の処置、包帯法、巻軸帯、三角巾)		
7	13・14			
8	15・16	【演習】安全・安楽・自立に配慮した移動・移送の援助をしよう (歩行介助(杖)、車椅子、ストレッチャー)		
9	17・18	学習のまとめ・終講試験		
教科書		看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) 2026 年 准看護師試験問題集 (医学書院)		
成績評価の方法		授業出席状況、授業態度、課題提出、筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅴ		
開講時期		Ⅰ年 前期・後期	時間数	35 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的: 基本的看護の構成要素である呼吸を助け体温を保持することで、 対象が安全安楽自立に向けた日常生活が送れるよう援助方法を学ぶ。 概要: バイタルサインの意義・目的を理解する。安全安楽自立の視点を持ち、対象 者に応じた観察方法と測定技術を講義・学内演習を通して学ぶ。呼吸を助け、 体温保持の意義・目的を理解し安全安楽を考えたフィジカルイグザミネーション の看護技術の方法を講義・学内演習を通して学ぶ。		
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	＜バイタルサイン＞ バイタルサインとは、意識障害の観察	専任教員 パワーポイント	
2	3・4	呼吸の生理、種類、観察、測定方法、呼吸の異常、Spo2		
3	5・6	脈拍の生理、観察、脈拍の異常、測定方法		
4	7・8	体温の生理、観察、代表的な熱型、測定方法、		
5	9・10	血圧の生理、観察、血圧計		
6	11・12	血圧の測定方法		
7	13・14	学内演習		
8	15・16	学内演習		
9	17・18	学内演習		
10	19・20	学内演習		
11	21・22	技術試験		
12	23・24	技術試験		
13	25・26	＜電法＞電法の意義と看護、電法の基礎知識、温電法・冷電法		
14	27・28	＜吸入＞吸入の基礎知識、実施上の注意点		
15	29・30	＜吸引＞吸引の基礎知識、実施上の注意点		
16	31・32	＜吸引・吸入＞演習		
17	33・34	体温表記入方法・まとめ		
18	35	終講試験		
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）		
参考文献		看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア） Vol.2 臨床看護技術（メディックメディア） Vol.3 フィジカルアセスメント（メディックメディア）		
成績評価の方法		授業出席状況（課題提出状況も含む）、技術試験（合格者は終講試験の受験が可能）、筆記試験、課題提出状況		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅵ		
開講時期		Ⅰ年 前期・後期	時間数	35 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的: 基本的欲求のひとつである清潔援助の意義が理解できる。 持っている知識を活かして、対象の清潔援助の必要性が理解できる。 対象に合わせた安全安楽な清潔の方法が考えられる。 概要: 身体を清潔にすることの目的を理解する。そのことから、身体を清潔にすることが自ら十分に満たされない時、身体面・精神面・社会面への影響について考え、看護の必要性を理解する。対象者が安全安楽な日常生活を送るために必要な援助技術について講義や学内演習を通し学ぶ。事例も活用し、対象にとって安全安楽な自立性のある看護技術の方法を考え、実際に実践(体験)する。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	清潔の意義・目的		専任教員
2	3・4	安全安楽な清潔ケアとは、衣生活の援助		
3	5・6	寝衣交換(学内演習)		
4	7・8	手浴・足浴(学内演習)		
5	9・10	手浴・足浴まとめ		
6	11・12	洗髪・整容		
7	13・14	洗髪(学内演習)まとめ		
8	15・16	全身清拭・熱布清拭(学内演習)		
9	17・18	シャワー浴の援助 まとめ		
10	19・20	事例に基づいた演習(学内演習)		
11	21・22	全身清拭・寝衣交換		
12	23・24	事例に基づいた演習(学内演習)		
13	25・26	上記の内容を、進捗状況に合わせて順不同で学習する		
14	27・28			
15	29・30			
16	31・32	総まとめ		
17	33・34	終講試験		
18	35			
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.Ⅰ 基礎看護技術 (メディックメディア) Vol.Ⅱ 臨床看護技術 (メディックメディア)		
成績評価の方法		授業参加度(出席状況・提出物・授業態度) 筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅶ-Ⅰ		
開講時期		Ⅰ年 前期	時間数	15 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的： 基本的欲求のひとつである食事に対する援助の必要な対象を理解し, 対象が安全で 安楽な生活を自立して送れるために必要な援助を学ぶ。 概要： 人間にとって, 食事をすることの意義と目的を理解する。このことから, 何らかの理由に より食事を摂ることができない時の身体的・精神的・社会的な影響について考え, 看護 の必要性を理解する。対象が安全で安楽な生活を自立して送るために必要な援助方 法について学び, 実践できる力を養う。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	<食生活の援助> 食事の意義と目的 食べるために必要な機能、嚥下のプロセス 多様な摂取方法と看護師の役割 食事の種類と形態 経管栄養法 中心静脈栄養法（TPN） 【演習】食事援助の実際 【演習】事例に合わせた援助を考える（片麻痺、視覚障害など） <身体各部の計測> 【演習】身体計測と栄養状態の把握 身長、体重、胸囲、腹囲、握力、肺活量、BMI 計算 終講試験		専任教員 パワーポイント
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
7	13・14			
8	15			
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）		
参考文献		看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア） Vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）		
成績評価の方法		授業出席状況 授業態度 筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅶ-2		
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	20 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的:排泄の正常と異常、排泄援助の意義を理解し、排泄障害が人間に及ぼす影響を考え、対象にあわせた安全安楽自立の援助方法を実施する。 概要:排泄は人間の基本的欲求であり、生命の維持に欠かせない生理現象である。また観察をすることで患者情報を知る機会ともなる。ただ援助を受ける患者にとっては、普段の生活環境と異なっていることもあり、不安感を感じやすく、また強い羞恥心や屈辱感などを伴う行為である。精神的苦痛に配慮して安全、安楽にケアを行うことが大事である。よりよい援助の在り方について学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	排泄援助を受ける気持ちを理解する		専任教員 パ ワーポ イント
2	3・4	排泄に関連する人体のしくみを理解する 機能が障害されることによる影響を理解する (排尿・排便の異常)		
3	5・6	導尿・摘便・浣腸・胃洗浄・膀胱洗浄について		
4	7・8			
5	9・10	※上記の内容を、適宜演習やグループワークを行いながら学ぶ。 順序は進度状況で変更していく。		
6	11・12	※初回授業時に具体的な内容を提示する		
7	13・14			
8	15・16			
9	17・18			
10	19・20	学習まとめ・終講試験		
教科書		看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) 看護がみえる Vol.2 基礎看護技術 (メディックメディア) 2026 年 准看護師試験問題集 (医学書院)		
成績評価の方法		授業出席状況、授業態度、課題提出、筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師
		基礎看護 臨床看護概論Ⅰ		
開講時期		Ⅰ 年 前・後期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的:健康障害のある患者とそれを支える家族がどのような状況におかれ,どのような援助が必要となるかを,医療および看護の視点から多角的に学習する。		
		概要:内科的治療・処置を受ける患者の看護を学習する。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	臨床看護概論 第Ⅰ章 臨床看護の特徴 第Ⅱ章 臨床看護活動と患者・家族の理解 第Ⅲ章 健康状態(レベル)の経過に伴う看護 第Ⅵ章 継続看護と多様な場における看護		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
1	13・14	臨床看護概論 第Ⅴ章 治療・処置に伴う看護 Ⅰ 安静療法 Ⅱ 食事療法 Ⅲ 薬物療法 Ⅳ 輸液療法 治療法概説 第Ⅰ章 薬物療法 Ⅰ～Ⅱ 第Ⅲ章 食事療法 第Ⅴ章 輸液療法第		非常勤講師 パワーポイント
2	15・16			
3	17・18			
4	19・20			
5	21・22			
1	23・24	臨床看護概論 第Ⅴ章 治療・処置に伴う看護 Ⅴ 放射線療法を受ける患者の看護 Ⅶ 精神療法を受ける患者の看護 Ⅷ 検査 Ⅸ 救急処置を受ける患者の看護 Ⅹ ICU の看護 治療法概説 第Ⅵ章 放射線療法 第Ⅶ章 透析療法 第Ⅷ章 救急時の対応		非常勤講師 パワーポイント
2	25・26			
3	27・28			
4	29・30			
5	31・32			
6	33・34			
1	35	筆記試験		非常勤講師 (3名)
教科書		看護学入門Ⅶ 基礎看護Ⅲ 臨床看護概論 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護学入門Ⅲ 疾病のなりたち 臨床病理検査		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 医師 医師
		成人看護Ⅰ 呼吸器・血液・脳神経 内分泌・代謝		
開講時期		Ⅰ 年 前・後期	時間数	35 時間／210 時間
授業目的 及び概要		Ⅰ. 目的:健康障害の病態生理と症候について,系統的に疾病の成り立ちや治療方法,回復の過程を学ぶ。 概要: Ⅰ) 呼吸器疾患・血液疾患 2) 脳・神経疾患 3) 内分泌・代謝疾患		
回数	時間	授業内容		担当者
Ⅰ	Ⅰ・2	呼吸器疾患患者の看護		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	第Ⅰ章 呼吸器疾患の基本的知識		
3	5・6	Ⅰ 構造と機能 Ⅱ 主な症状と病態生理 Ⅲ 主な徴候(身体所見)と検査		
4	7・8	Ⅳ 主な治療・処置		
5	9・10	第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
6	11・12	Ⅰ～Ⅹ 内分泌・代謝疾患患者の看護		
7	13・14	第Ⅰ章 内分泌・代謝疾患の基礎的知識		
8	15・16	第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
9	17・18	Ⅰ 下垂体の主な疾患 Ⅱ 甲状腺の主な疾患 Ⅲ 副甲状腺の主な疾患 Ⅳ 副腎の主な疾患 Ⅴ 膵島腫瘍 Ⅵ 性腺の主な疾患 Ⅶ 乳腺の主な疾患 Ⅷ 代謝疾患(糖尿病) Ⅸ その他の代謝疾患		
	19	筆記試験		
Ⅰ	20・21	血液・造血器疾患患者の看護		非常勤講師 パワーポイント
2	22・23	第Ⅰ章 血液・造血器疾患患者の基本的知識		
3	24・25 26	第Ⅱ章 主な疾患とその治療 筆記試験		
Ⅰ	27・28	脳神経疾患患者の看護		非常勤講師
		第Ⅰ章 脳神経疾患の基礎的知識		
2	29・30	Ⅰ 構造と機能 Ⅱ 主な症状と病態生理		
3	31・32	第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
4	33・34 35	Ⅰ 脳神経疾患 Ⅱ 筋疾患 Ⅲ 発作性疾患 Ⅳ 中毒性疾患 筆記試験		
教科書		看護学入門 8 成人看護Ⅰ (メヂカルフレンド社)呼吸 血液・造血器 看護学入門 9 成人看護Ⅱ (メヂカルフレンド社)脳神経 内分泌・代謝		
参考文献		看護学入門 Ⅰ 人体のしくみと働き(メヂカルフレンド社)		
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 医師 医師 医師
		成人看護Ⅱ 消化器・腎泌尿器・女性生殖器		
開講時期		Ⅰ 年 前・後期	時間数	34 時間／210 時間
授業目的 及び概要		Ⅰ. 目的:健康障害の病態生理と症候について,系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。 概要: Ⅰ) 消化器疾患 2) 腎・泌尿器疾患 3) 女性生殖器		
回数	時間	授業内容		担当者
Ⅰ	Ⅰ・2	消化器疾患患者の看護		非常勤講師 非常勤講師 パワーポイント
2	3・4	第Ⅰ章 消化器疾患の基本的知識		
3	5・6	Ⅰ 構造と機能 Ⅱ 主な症状と病態生理 Ⅲ 主な検査 Ⅳ 主な治療・処置		
4	7・8	//		
5	9・10	第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
6	11・12	Ⅰ 口腔・食道の疾患 Ⅱ 胃・十二指腸の疾患 Ⅲ 腸・腹膜の疾患		
7	13・14	Ⅳ 肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓の疾患 Ⅴ 肛門の疾患		
8	15・16	Ⅵ 薬物の有害反応による消化器疾患 Ⅶ 急性腹症		
9	17・18	//		
	19	筆記試験		
Ⅰ	20・21	病理学各論 第Ⅵ章 腎・泌尿器疾患 Ⅰ 腎臓の疾患 Ⅱ 尿路・男性生殖器疾患		非常勤講師 パワーポイント
2	22・23	腎・泌尿器疾患患者の看護		
3	24・25	第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
4	26・27	Ⅰ 腎臓の主な疾患 Ⅱ 尿管の主な疾患 Ⅲ 膀胱の主な疾患 Ⅳ 前立腺の主な疾患 Ⅴ 尿道の主な疾患 Ⅵ 陰嚢・精巣の主な疾患		
5	28・29 30	Ⅶ 陰茎の主な疾患 筆記試験		
Ⅰ	31・32	女性生殖器疾患患者の看護		非常勤講師
2	33・34	第Ⅰ章 女性生殖器疾患の基本的知識 第Ⅱ章 主な疾患とその治療		
教科書		看護学入門Ⅷ 成人看護Ⅰ 消化器(メヂカルフレンド社) 看護学入門Ⅸ 成人看護Ⅱ 腎・泌尿器 女性生殖器(メヂカルフレンド社) 看護学入門Ⅻ 母子看護 母性の看護 (メヂカルフレンド社) 看護学入門Ⅲ 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 医師	
		成人看護Ⅲ 運動器・リハビリ・循環器			
開講時期		Ⅰ 年 前・後期	時間数	34 時間／210 時間	
授業目的 及び概要		2. 目的:健康障害の病態生理と症候について,系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。 概要: Ⅰ) 運動器疾患・リハビリテーション 2) 循環器疾患			
回数	時間	授業内容		担当者	
Ⅰ 2 3 4 5 6 7	Ⅰ・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15	骨・関節・筋疾患患者の看護 第Ⅰ章 骨・関節・筋疾患の基本的知識 Ⅰ 構造と機能 Ⅱ 診察と計測 Ⅲ 主な症状と病態生理 Ⅳ 主な検査 疾病の成り立ち 第Ⅱ章 運動器疾患 第Ⅱ章 主な疾患とその治療 Ⅰ 主な治療の種類と適応 Ⅱ 主な疾患の治療 Ⅲ リハビリテーション 治療法概説 第Ⅳ章 リハビリテーション 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント	
Ⅰ 2 3 4 5 6 7 8 9	16・17 18・19 20・21 22・23 24・25 26・27 28・29 30・31 32・33 34	循環器疾患患者の看護 第Ⅰ章 循環器疾患の基本的知識 Ⅰ 構造と機能 Ⅱ 主な騒擾と病態生理 Ⅲ 主な検査 Ⅳ 主な治療・処置 第Ⅱ章 主な疾患とその知識 Ⅰ 心不全 Ⅱ ショック Ⅲ 不整脈 Ⅳ 心臓弁膜症 Ⅴ 虚血性心疾患 Ⅵ 心筋・心膜疾患 Ⅶ 心筋症 Ⅷ 血圧異常 Ⅸ 脈管疾患 Ⅹ その他の疾患 筆記試験			非常勤講師
教科書		看護学入門 3 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社) 看護学入門 7 基礎看護Ⅲ 特論:治療法概説 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 8 成人看護Ⅰ 循環器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 骨・関節・筋 (メヂカルフレンド社)			
参考文献					
成績評価の方法		筆記試験			

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師
		成人看護Ⅳ 皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯・口腔疾患		医師 医師 医師 医師
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	35 時間／210 時間
授業目的 及び概要		目的:健康障害の病態生理と症候について,系統的に疾病の成り立ちや治療方法や回復の過程を学ぶ。 概要: 1) 皮膚疾患 2) 眼科疾患 3) 耳鼻咽喉疾患 4) 歯・口腔疾患		
回数	時間	授業内容		担当者
1 2 3 4 5	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11	アレルギー疾患・膠原病疾患患者の看護 第 1 章 アレルギー疾患・膠原病疾患の基本的知識 第 2 章 主な疾患とその治療 第 3 章 アレルギー疾患・膠原病の看護の基本 第 4 章 アレルギー疾患・膠原病疾患患者の看護 筆記		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3 4	12・13 14・15 16・17 18・19	眼疾患患者の看護 第 1 章 眼疾患の基本的知識 第 2 章 主な疾患とその治療 第 3 章 眼疾患看護の基本 第 4 章 眼疾患患者の看護 まとめ		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3 4	20・21 22・23 24・25 26・27	耳鼻咽喉疾患患者の看護 第 1 章 耳鼻咽喉疾患の基本的知識 第 2 章 主な疾患とその治療 第 3 章 耳鼻咽喉疾患看護の基本 第 4 章 耳鼻咽喉疾患患者の看護		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3	28・29 30・31 32・33	歯・口腔疾患の基本的知識 第 1 章 歯・口腔疾患の基本的知識 第 2 章 主な疾患とその治療 第 3 章 歯・口腔疾患看護の基本 第 4 章 歯・口腔疾患患者の看護		非常勤講師 パワーポイント
	34・35	筆記試験		非常勤講師 (4 名)
教科書		看護学入門 9 成人看護Ⅱ アレルギー 膠原病 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 皮膚 眼 耳鼻咽喉 歯・口腔 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師
		成人看護Ⅴ		
開講時期		Ⅰ年 前・後期	時間数	37 時間／210 時間
授業目的 及び概要		目的:成人期にある人々の特徴を理解し,外科的治療および内科的治療を必要とする患者の急性期から回復期,および慢性期にいたる疾病段階にある人々に対して必要な看護について学ぶ。 概要:1)呼吸器 消化器 循環器 2) 血液 脳神経 運動器 3) 腎・泌尿器 4) 女性生殖器		
回数	時間	授業内容		担当者
1 2 3 4 5 6	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12	成人看護概論 成人看護の理解 Ⅰ 成人看護の対象の理解 Ⅱ 成人各期の発達段階とその特徴 Ⅲ 成人期の生活と健康障害 Ⅳ 成人看護の特徴と役割 脳神経疾患患者の看護 第3章 脳神経疾患看護の基本 第4章 脳神経疾患患者の看護 腎・泌尿器疾患患者の看護 第3章 腎・泌尿器看護の基本 第4章 腎・泌尿器患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 第3章 内分泌・代謝疾患看護の基本 第4章 内分泌・代謝疾患患者の看護 筆記試験		非常勤講師
1 2 3 4 5 6	13・14 15・16 17・18 19・20 21・22 23・24	消化器疾患患者の看護 第3章 消化器疾患看護の基本 第4章 消化器疾患患者の看護 血液・造血器疾患患者の看護 第3章 血液・造血器疾患看護の基本 第4章 血液・造血器疾患患者の看護 骨・関節・筋疾患患者の看護 第3章 骨・関節・筋疾患看護の基本 第4章 骨・関節・筋疾患患者の看護 筆記試験		非常勤講師
1 2 3 4 5 6	25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35・36 37	呼吸器疾患患者の看護 第3章 呼吸器疾患看護の基本 第4章 呼吸器疾患患者の看護 循環器疾患患者の看護 第3章 循環器疾患看護の基本 第4章 循環器疾患患者の看護 感染症・結核患者の看護 第3章 感染症・結核患者看護の基本 第4章 感染症・結核患者の看護 筆記試験		非常勤講師
教科書		看護学入門 8 成人看護Ⅰ 呼吸器 消化器 循環器 血液 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 脳神経 腎・泌尿器 内分泌・代謝 感染症 女性生殖器 (メヂカルフレンド社) 看護学入門 10 成人看護Ⅲ 骨・筋・関節 (メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者	看護師
		老年看護	資格・役職等	看護師
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	35 時間／212 時間
授業目的 及び概要		目的:高齢者の特徴と老年期の看護の役割を学ぶ 概要: 1. 「老化」により,高齢者の体や精神がどう変化するかを理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会環境と介護保険について学ぶ。 3. 医療機関以外の「介護の場」での看護師の役割を理解する。 4. 老年期にある対象の身体的,精神的,社会的特徴を理解した上で,高齢者の生活を支える看護の視点と看護の実際について学ぶ。 5. 高齢者に多い疾患の看護について学ぶ。 6. 老年期にある患者の事例を用い症状のアセスメント及びケアプランについて考え,看護過程の展開への参加のために必要な知識、技術、思考過程を学ぶ。		
		回数	時間	授業内容
1	1・2	保健医療の制度 (キーワード:老人保健法・介護保険制度・地域包括ケアシステム・成年後見制度など)	専任 教員 パワーポイント	
2	3・4	高齢者とからだ (キーワード: 老化・発達課題・ホメオスタシス・廃用症候群・高齢者虐待防止法など)		
3	5・6	高齢者看護の原則		
4	7・8	(キーワード:高齢者虐待・居住環境の整備・在宅看護など)		
5	9・10	緩和ケア・終末期看護・看取り		
6	11・12	(キーワード:緩和ケア・終末期・見取り・全人的苦痛・QOL・臨死期・グリーフケアなど)		
7	13・14	いのち、生きることを考える		
8	15・16			
9	17・18	まとめ		
10	19・20			
11	21・22	※上記の内容を、適宜グループワークなどを取り入れながら実施する。進捗状況によって順		
12	23・24	不同となる。		
1	25・26	老年看護 第4章 高齢者看護の特徴	非常勤 講師 パワーポイント	
2	27・28	Ⅰ日常生活の自立に対する援助 Ⅱ日常生活における援助技術		
3	29・30	Ⅲ検査・治療に伴う高齢者の看護		
4	31・32	第5章 高齢者に多い疾患と看護 Ⅰ認知症 Ⅱうつ病 Ⅲ骨粗鬆症 Ⅳ変形性膝関節症・脊柱管狭窄症		
5	33・34	Ⅴ大腿骨髌部骨折 Ⅵ高齢者に多い慢性疾患 Ⅶ悪性腫瘍(がん) Ⅷ感染症		
Ⅰ	35	筆記試験	専任 教員 非常勤 講師	
教科書		看護学入門Ⅱ 老年看護 (メヂカルフレンド社)		
参考文献		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 (メヂカルフレンド社) 看護学入門7 成人看護Ⅲ (メヂカルフレンド社) 看護学入門8 成人看護Ⅰ (メヂカルフレンド社)		
成績評価の方法		筆記試験、授業出席状況、授業態度、課題提出状況(提出期限厳守)		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 看護師 看護師
		母子看護 母性看護		
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的:女性のライフサイクルの各期における特徴と必要な看護について理解する。 概要:Ⅰ. 妊娠・分娩・産褥各期の正常と異常, 疾患について学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥各期の経過および妊婦・産婦・褥婦の看護に関する基本的な知識を学ぶ。		
回数	時間	授業内容	担当者	
Ⅰ	Ⅰ・2	母性の看護	非常勤講師	
2	3・4	第 2 章 正常な妊婦、産婦、褥婦および新生児の理解		
3	5・6	Ⅰ 妊娠 Ⅱ 分娩		
4	7・8	Ⅲ産褥 Ⅳ新生児		
5	9・10	第 4 章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常		
6	11・12	Ⅰ 妊娠の異常（ハイリスク妊娠） Ⅱ 分娩の異常		
7	13・14	Ⅲ産褥の異常 Ⅳ新生児の異常		
Ⅰ	15・16	第Ⅰ章 母性看護概論	専任教員	
2	17・18	Ⅰ 母性看護とは Ⅱ 母性の特徴 Ⅲ 母性各期の特徴と看護		
3	19・20	Ⅳ 母子保健の現状と動向 Ⅴ 女性の健康と権利に関する概念 Ⅵ 母性看護における安全管理		
4	21・22	第 3 章 妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護		
5	23・24			
6	25・26	第5章 妊婦、産婦、褥婦および新生児の異常と看護		
7	27・28			
8	29・30			
9	31・32	【演習】 沐浴・身体計測 等		
Ⅰ	33・34	母性看護の実際	非常勤講師 パワーポイント	
Ⅰ	35	筆記試験	非常勤講師 専任教員	
教科書		看護学入門 12 母子看護 母性の看護（メヂカルフレンド社）		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 大学教授 看護師
		母子看護 小児看護		
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的:小児各期に特有な疾患と看護について学習する。		
		概要:1. 小児各期に特有な疾患について学ぶ。		
		2. 看護の対象となる小児の特徴を理解し、小児看護についての理解を深める。		
		3. 小児の成長発達の特徴を理解し、子どもと家族への看護を学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	第2章主な小児疾患 Ⅰ小児疾患の特徴 Ⅱ先天性疾患 Ⅲ出生時の疾患 Ⅳ成長・発育の障害 Ⅴ呼吸器系の疾患 Ⅵ循環器系の疾患 Ⅶ消化器系の疾患 Ⅷ血液・造血器系の疾患 Ⅸ内分泌系疾患 X代謝疾患 Ⅺ腎・尿路・生殖器系の疾患 Ⅻ脳・神経・筋系の疾患 Ⅼ免疫・アレルギー疾患、膠原病 Ⅽ感染症 Ⅾ皮膚疾患～Ⅿそのほかの小児疾患・問題 まとめ 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
2	3・4			
3	5・6			
4	7・8			
5	9・10			
6	11・12			
	13・14			
1	15・16	第1章小児の看護概論 Ⅰ小児看護の基本 Ⅱ小児保健 Ⅲ小児の解剖・生理 Ⅳ小児の成長発達 Ⅴ小児の栄養 Ⅵ発達段階ごとの小児の看護 Ⅶ小児の養護 Ⅷ小児の疾病予防 Ⅸ小児の精神保健 第3章小児の多様な場における看護 第4章小児の看護技術と状況・状態・症状別看護 Ⅰプレパレーション Ⅱ小児看護の特殊技術 Ⅲ特殊な問題をもつ小児の看護 Ⅳ主な症状に対する看護 第5章主な小児疾患患者の看護 Ⅰ低出生体重児(未熟児)の看護 Ⅱ新生児の疾患と看護 Ⅲ乳児の栄養障害と看護 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、救急と看護、まとめ 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
2	17・18			
3	19・20			
4	21・22			
5	23・24			
6	25・26			
7	27・28			
8	29・30 31			
1	32・33	小児看護のまとめ		専任教員
2	34・35			
教科書		看護学入門Ⅱ 母子看護 小児の看護(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	医師 看護師 看護師
		精神看護Ⅰ		
開講時期		Ⅰ 年 前・後期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的:精神障害を持つ患者の疾患と看護について学ぶ。 概要:Ⅰ. 精神医療の総論、精神症状・疾患、治療について学ぶ。 Ⅱ. 精神障害を持つ患者の看護について学ぶ。 Ⅲ. 精神看護の課題と展望		
回数	時間	授業内容	担当者	
1	1・2	第3章 精神障害者の診療	非常勤講師	
2	3・4	Ⅰ 精神障害者に関する統計的知識		
3	5・6	Ⅱ 精神障害の原因と種類		
4	7・8	Ⅲ 精神障害の症状と精神状態		
5	9・10	Ⅳ 精神障害の診察と検査		
6	11・12	第4章 主な精神障害の治療		
7	13・14	Ⅰ 精神障害治療の考え方		
8	15・16	Ⅱ 各障害の分類と治療		
	17・18	授業のまとめ、医療に係わる雑談【パワーポイント・書画カメラ】 復習 筆記試験		
1	19・20	倫理 セルフケア 人との関係性のバランス【パワーポイント】	非常勤講師 パワーポイント 非常勤講師 パワーポイント	
2	21・22	リエゾン活動 認知症ケア【パワーポイント】		
3	23・24	自分を知る 他者を知る 自己紹介他者紹介 精神障害を持つ人と関わるときの視点		
4	25・26	長野赤十字病院の紹介 精神科外来と病棟の紹介 精神科救急 精神科身体合併症 コードブルー RRT		
5	27・28	患者とのコミュニケーション		
6	29・30	多職種連携 チーム医療 周産期における多職種連携		
7	31・32	精神科リスクマネジメント 自殺企画 自傷行為 CVPPP 薬物の有害事象 アンガーマネジメ ント		
8	33・34 35	まとめ 筆記試験		
教科書		看護学入門Ⅲ 精神看護（メヂカルフレンド社）		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門分野	担当者	看護師 大学助教
		精神看護Ⅱ	資格・役職等	看護師
開講時期		Ⅰ 年 後期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的:心の健康を保持増進させるための基本的な知識と看護の役割を学ぶ。 概要: Ⅰ.精神看護の機能・役割、看護の実際について知り、精神障害を持つ患者への看護援助の基本について学ぶ。 Ⅱ.心の働きと、その発達の過程及び心の健康の概念について、精神発達や性の発達の観点から理解し、精神保健の意義について認識を深め、人間の心理を理解する。		
回数	時間	授業内容		担当者
Ⅰ	Ⅰ・Ⅱ	第Ⅴ章精神障害者の看護		非常勤講師
Ⅱ	Ⅲ・Ⅳ	Ⅰ 精神障害の見方と患者とのコミュニケーション Ⅱ 精神障害者看護の基本		
Ⅲ	Ⅴ・Ⅵ	Ⅲ精神科医療の実際と福祉的視点		
Ⅳ	Ⅶ・Ⅷ	Ⅳ精神科看護の場とその看護		
Ⅴ	Ⅸ・Ⅹ	Ⅴ経過と看護		
Ⅵ	Ⅺ・Ⅻ	Ⅵ症状と看護		
Ⅶ	Ⅼ・Ⅽ	Ⅶ治療に伴う援助 Ⅷ統合失調症患者の看護の事例		
Ⅰ	Ⅾ・Ⅿ	序章 精神看護のとらえ方		非常勤講師 パワーポイント
Ⅱ	ⅰ・ⅱ	第Ⅰ章 心の健康と発達		
Ⅲ	ⅲ・ⅳ	第Ⅱ章 心の働きと危機		
Ⅳ	ⅴ・ⅵ	第Ⅵ章 精神保健福祉の変遷 Ⅰ 精神医療の歴史		
Ⅴ	ⅶ・ⅷ	Ⅱ わが国の精神保健福祉の歴史		
Ⅵ	ⅸ・ⅹ	第Ⅶ章精神福祉対策 Ⅰ 精神保健福祉のとらえ方		
Ⅶ	ⅺ・ⅽ	Ⅱ 精神保健福祉の資源と対策 第Ⅷ章 精神的健康の保持・増進		
Ⅰ	ⅻ・ⅼ	精神障害を持つ患者への看護について		専任教員
Ⅱ	ⅽ・ⅾ			
Ⅲ	ⅿ・ⅿ			
	35	筆記試験		
教科書		看護学入門Ⅱ 精神看護(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験 出席状況 授業態度		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師
		保健医療福祉のしくみ		
開講時期		2 年 前期	時間数	22 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的:現代の日本における保健医療福祉のしくみについて理解し、看護専門職として、幅広い視野を持ち、看護の対象者に適切な援助ができる基礎的な知識を学ぶ。 概要:私たちが、生活している環境は、保健医療福祉のしくみに守られている。身近な事柄から、保健医療福祉に関連した内容を理解し、看護を行なっていくうえで専門職者として必要な知識を学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	医療のしくみ 第 1 章 現代医療とヘルスケア		非常勤講師
2	3・4	第 2 章 現代医療のしくみ 第 3 章 現代医療の倫理		
3	5・6	公衆衛生のしくみ 第 1 章 公衆衛生とは		
4	7・8	第 2 章 環境と生体		
5	9・10	第 3 章 疾病の予防		
6	11・12	第 4 章 人口と衛生統計 第 5 章 保健活動		
7	13・14	社会福祉のしくみ 第 1 章 現代社会における社会福祉の意味		
8	15・16	第 2 章 社会福祉の発展		
9	17・18	第 3 章 社会福祉制度と実施体制		
		第 4 章 社会福祉の援助とソーシャルワーク		
		第 5 章 社会保険と関連制度		
		第 6 章 これからの社会福祉		
	19・20	まとめ 筆記試験		
1	21・22	介護保険制度の実際		専任教員 パワーポイント
教科書		看護学入門 4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律(メヂカルフレンド社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎分野	担当者 資格・役職等	保健師
		看護と法律		
開講時期		2 年 前期/後期	時間数	13 時間/35 時間
授業目的 及び概要		目的:看護専門職として必要な制度や法律について学ぶ。		
		概要:看護職が看護を行うためには、看護の専門的な知識や技術を身につけることは大事であるが、活動をするために専門分野に関する各種の制度や法律を理解し、「看護」の専門性について認識しておくことも重要である。円滑な看護活動を行うために制度や法律が存在することを認識し、基本的な制度、法律について学んでいく。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	序章 なぜ法律や制度を学ぶのか		非常勤講師
2	3・4	第1章 生活者の健康に関する法規とは 第2章 保健医療提供体制に関連する法規		
3	5・6	第3章 保健衛生対策に関連する法規		
4	7・8	第4章 医薬品・医療機器等に関連する法規		
5	9・10	第5章 保険・福祉等に関連する法規		
6	11・12	第6章 雇用・労働の法規 第7章 生活衛生・環境保全関連の法規		
	13	筆記試験		
教科書		看護学入門 4 保健医療福祉のしくみ/看護と法律(メヂカルフレンド 社)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験		

授業科目		専門基礎科目	担当者 資格・役職等	看護師
		看護学概論Ⅱ(看護倫理)		
開講時期		2 年前期	時間数	17 回/34時間)
授業の概要		1. 人間の尊厳を基盤とした看護の専門職人としての良識ある判断と行動が行われるような倫理観を養う。 2. 看護の倫理規定に関する基本原則を理解し, 看護職の直面する諸々の倫理的問題の解決に向けて, 看護の視点から保健・医療・福祉における倫理的意思決定について学ぶ。		
回数	日程	授業内容		講義方法
1	4月 8日 (火)	ガイダンス 1. 看護と倫理 1) 倫理学の基本的な考え方 2) 職業倫理と倫理原則		個人ワーク ①
2				
3	4月 15日 (火)	2. 専門職としての倫理 1) 看護倫理の歴史と位置づけ 2) 看護者の倫理綱領 3) 看護におけるケアの倫理 ★看護者の倫理綱領 読み合わせ		個人 ・Gワーク ②
4				
5	5月 1日 (木)	3. 現代医療の場で求められる看護職の倫理 1) 現代医療における倫理的な問題 2) 看護職の責務 3) 医療安全と看護倫理		小テスト① (5月 1日)
6	5月 8日 (木)	4. 看護の場で生じやすい倫理上の問題と対処方法 1) 臨床倫理とは 2) 看護師が経験する倫理的ジレンマ		
7				
8				
9	5月 29日 (木)	★実習等での患者・家族・医療職との関りから倫理的問題を考えてみよう。 5. 倫理的問題へのアプローチ法 1) 倫理的問題を議論するための基本的なルール 2) 倫理的問題に対処するための方法論 3) 具体的なアプローチ法 ① サラ・フライの倫理的分析と意思決定のためのモデル ② ナラティブアプローチ		個人ワーク ③
10				
11	6月 3日 (火)	③ Jonsenらの症状検討シート ④ トンプソン&トンプソンの意思決定のための 10 のステップ		(小テスト②)
12		6. 倫理問題への組織的取り組み		
13	6月 5日 (木)	★経験した倫理的問題を倫理的問題アプローチ方法を活用して分析をしてみよう 事例検討 まとめ:試験の説明:小テストの解説・筆記試験の説明		個人・ G ワーク④
14				
15	6月 10日 (火)	★経験した倫理的問題を倫理的問題アプローチ方法を活用して分析をしてみよう 事例検討		個人・ G ワーク④
16				
17	6月 13日 (金)	筆記試験		
教科書		2022 看護学入門 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 メチカルフレンド社 よくわかる看護職倫理綱領 照林社		
参考文献		① 宮坂道夫:看護倫理, 系統別看護学講座 別巻看護倫理, 医学書院, 第2版第1刷, 2018. ② 箕岡真子:臨床看護倫理入門 ,へるす出版, 第1版2刷, 2018. ③ 宮坂道夫:医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ, 医学書院第2版2刷, 2012. ④ 吉田みつ子:看護倫理 見えているものが違うから起こること 第1版第4刷, 2016.		
講義評価 評価の割合は状況により変更する場合もある		個人・グループワーク①②③④		50%
		小テスト① (②)		
		2 回目の小テスト実施は、講義開始後学生と相談し決める リフレクションシート・授業参加度		
		6月 12日:筆記試験		50%

注意：講義時間:13:30～16:45 ただし、6月12日のみ 13:30～15:00 筆記試験 60分
日程は授業の進み具合や学生の理解度により変更する場合があります。

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師
		基礎看護 基礎看護技術Ⅷ		
開講時期		2年 前・後期	時間数	35 時間/245 時間
授業目的 及び概要		目的：患者に行われる医療行為の目的・内容について、医療者－患者の双方の立場から理解することができる。患者に安全で、身体的・精神的な負担が最小限になるための援助方法を考え実施できる。 概要：医師による健康状態の判断・疾病の診断・治療方針の選択・治療効果の確認のため行われる診療の補助の実際を理解する。対象にとって身体侵襲を伴う行為であるため、患者の心身に及ぼす影響を把握し、患者の負担が最小限になるような援助実際を学ぶ。また目的どおりの診療が安全に行われ、正確な情報が得られる援助の実際を学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1	1・2	【講義】与薬を行う看護師の義務・責任 ～安全に与薬をするための知識～		専任教員 パワーポイント
2	3・4	【講義】注射と点滴マスターになろう ～注射法、点滴の基礎知識～		
3	5・6	【講義】安全に穿刺・輸血を行うポイント		
4	7・8	【GW】薬剤の理解～正確・安全・安楽に与薬を行うために①～		
5	9・10	【GW】薬剤の理解～正確・安全・安楽に与薬を行うために②～		
6	11・12	【GW 発表】薬剤の理解～正確・安全・安楽に与薬を行うために③～		
7	13・14	【演習】対象者にどんな採血をしたい？ ～採血に対する思いの共有と実際～		
8	15・16	【演習】採血の根拠は大丈夫？ ～より正確・安全・安楽な採血を目指して～		
9	17・18	【演習】真空採血ホルダーを用いた採血方法の実際		
10	19・20	【演習】静脈内注射・皮内注射を正確・安全・安楽に実施しよう		
11	21・22			
12	23・24	【演習】点滴を正確・安全・安楽に実施しよう		
13	25・26			
14	27・28	【演習】皮下注射を正確・安全・安楽に実施しよう		
15	29・30			
16	31・32	【演習】筋肉内注射を正確・安全・安楽に実施しよう		
17	33・34			
18	35	終講試験		
教科書		看護学入門6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術（メヂカルフレンド社）		
参考文献		看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア） 看護がみえる Vol.2 基礎看護技術（メディックメディア） 2025 年度准看護師試験問題集(医学書院)		
成績評価の方法		授業出席状況 授業態度 課題の提出(15%) 筆記試験(85%)		

授業科目		専門分野	担当者 資格・役職等	看護師 看護師 看護師
		基礎看護 臨床看護概論Ⅱ		
開講時期		2年 前期	時間数	35 時間／70 時間
授業目的 及び概要		目的: 主要な症状を示す患者の看護について理解を深める。 概要: 外科的治療・処置を受ける患者の看護の理解を深める。 事例から主体的に考え、周手術期の看護を学ぶ。		
回数	時間	授業内容		担当者
1 2 3 4 5	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11	第4章 主な症状に対する看護 I 貧血 II 出血傾向 III ショック状態 IV 咳嗽・喀痰 V 呼吸困難 VI 悪心・嘔吐 VII 嚥下困難 VIII 排尿障害 IX 排便障害 X 黄疸 XI 脱水 XII 浮腫 XIII 発熱 XIV 痛み XV 感覚障害 XVI 意識障害 XVII 不安・抑うつ 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3 4 5 6	12・13 14・15 16・17 18・19 20・21 22・23 24	臨床看護概論 第5章 VI 手術療法を受ける患者の看護 特論: 治療法概説 第2章 手術療法 I 手術療法の目的 II 術前検査と手術の決定 III 麻酔の種類とその施行に伴う診療 IV 主な領域の手術療法 // 筆記試験		非常勤講師 パワーポイント
1 2 3 4 5 6	25・26 27・28 29・30 31・32 33・34 35	経過別看護 事例紹介 事例を基に、情報収集、情報の整理、看護の視点を 個人学習、チーム学習で展開していく。 理解度に応じて進展具合は調整する。		専任教員
教科書		看護学入門7 基礎看護Ⅲ 臨床看護概論 (メヂカルフレンド社) DVD (二次救命処置 ALS)		
参考文献				
成績評価の方法		筆記試験 レポート		